



# TAKARAMONO NEWS

福島学×福島ガイドブック  
＝ 福島の未来！

1年 福島 咲良

咲良!

いつまでもアニメなんか見てないで  
少しは勉強したらどうなの?

いま、勉強中〜

アニメ  
見てるじゃないの!?

だから、アニメ見て  
勉強中なんだから!

何ふざけたこと  
言ってるの!!!!

もう…お母さんったら  
わかってないなあ

どうせアニメはくだらないと思ってらんでしょ。「ワ  
ールドジャパン」を知らないの? 海外ではアニメは日本  
を代表する文化なんだから。政府だって対外宣伝の  
目玉にしてるよ。それに、アニメをつくるには、企画から  
作画、編集、音響、版権の管理とか、ものすごく複雑な  
工程があって、たくさんの人が関わっている一大産業  
なの。それに知ってる? アニメには、地域を活性化する力  
があるよ。自治体や企業と連携して地域や産業をPR  
したり、子どもたちにワークショップを通して創作や情報  
発信の楽しさを伝えたり、それに――

咲良は、福島市にある桜の聖母短期大学に通う1年  
生。選択している「福島学」という科目のフィールドワー  
クで、三春町のアニメ制作会社「福島ガイナックス」の視  
察に行ってきたばかりだ。

### 福島とリアルに向き合う「福島学」

福島学というのは「地元に貢献する人を育てる」ことを目的  
とした授業である。桜の聖母短期大学に福島学が設置され  
たのは2012年、東日本大震災の翌年である。

「浜通りには、津波によって破壊された家屋やがれきが大量に  
残されている。しかし、復興が進んでしまうと、皮肉にもこの風景はキ  
レイになってしまう。この混乱の時期だからこそ、キレイに片づけられてしまふ前に、被害を学生に見せる科目が必要である。」

これは、当時の学長、シスター遠藤静子の言葉である。東日本大震災と原子力発電所事故による放射能という  
福島の問題に“リアルに”向き合うという、新しい学びが生まれたのである。

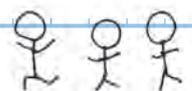
### 笑えるわけないでしょ

初年度は南相馬市の視察が中心だった。福島青年会議所と協力して南相馬市へ文化祭を移動させる「移  
動文化祭」も実行し、1500人も市民の来場を得た。ここで印象深い出来事があった。来場した市民の笑顔を書  
真に収め展示するコーナーで、ひとりの市民に学生が撮影を申し込んだ際、「津波で家も家族も流されたのに、  
笑えるわけないでしょ」と拒否され、学生が泣いてしまったのである。自分たちの元気を市民に届けようと学生が企画  
した「移動文化祭」であるが、被災者にとっては善意の押しつけになりかねないことを痛感する結果となった。今回  
の震災はいかに多様な価値観を生み出しているか、またそれをいかに理解する必要があるかを、学生が“リアルに”  
学んだ瞬間である。この体験をした学生は、人の心に寄り添う道を志し、国立大学に編入して心理学を学んでいる。

### 人との関わりから学ぶ

2年目以降も「食」「農」「高大連携」「連携プロジェクトの拡張」と年次テーマを掲げ、地域住民とともに  
「生きた課題」に取り組むプロジェクト型授業を展開してきた。

南相馬市のトマト農家と六次化で協力し、メニュー開発とマーケットへ流通させる方策を模索し、実際に試食販  
売を行った。南相馬市小高区の高校生たちとは、小高区の復興ビジョンについてホンネで語り合い、市長へのプ  
レゼンテーションまで行った。国見町の小中学生と連携し、国見町の魅力を探し発信するためにはどうするかを共に  
考えるワークショップを3ヶ月に渡り実行し、町長に向けて成果発表を行った。



正正下

$$\begin{array}{r}
 365 \\
 \times 24 \\
 \hline
 1460 \\
 7300 \\
 \hline
 8760
 \end{array}$$

No.

Date



## 自ら考え、行動する

「私なら、こうする。私なら、こうできる。と考え、実行することが重要です。」と福島学を指導する三瓶干香子先生は言う。昨年4月に起きた熊本地震の際には、福島学を履修している学生たちが真っ先に募金活動をはじめたという。福島学という科目を通して学生たちは多くの人々と関わり、問題を理解し、自ら考え、なによりも具体的な行動を起こすことの重要性を学んでいる。

## 被災地だけが福島ではない

さらに三瓶先生は語る。「被災地だけが福島ではありません。被災地支援だけが復興支援ではありません。これからの福島学は、福島という社会に生きる者として、福島から日本の、そして世界の問題につなげ、解決策を提案できる人材を育成する科目であるべきだと考えています。そのためにもまずは、県内各地の復興へ向けた取り組みを理解することが必要です。福島ガイナックスの視察はその最初の一步です。」

福島ガイナックスに行くと聞いて、咲良は飛び上がるほどうれしかった。咲良はアニメが大好きだ。特に声優が好きだ。お気に入りの声優さんも何人かいて、アニメを見ながらドキドキしてしまう。アニメの声優になりたいなあ、と密かに夢見ていた(誰にも言っていないけど)。

三春町の福島ガイナックスは、閉校になった中学校を利用していると聞いていたので、てっきり古い木造校舎を想像していたら、コンクリート造りのモダンな建物だった。併設の「空想とアートミュージアム 福島さくら遊学舎」ではちょうど人気テレビアニメの企画展を開催していて、大勢のファンで賑わっていた。馬場染みのキャラクターの原画展示や見学者が参加できるイベントもあって、授業で来ているのを一瞬忘れるくらい夢中になってしまった。

だが、咲良が一番感動したのは、企画が生まれ、数々の会議や制作現場を経て完成し、オンエア後の展開までのアニメ制作の一連の流れを、実際に現場で使っている机や資料を使ってリアルに再現した常設展「ガイナックス流アニメ作法」だ。アニメをつくるのにはとても多くの工程があり、たくさんの方が関わっていることに驚いた。専門の技術を持った人々や企業が協力しあって、初めて一つの作品になるのだ。

視察の案内をしてくれた福島ガイナックスの野田享さんが、「福島ガイナックスは、アニメを活用して雇用を創り、観光の拠点となることで、福島県に貢献するために2015年に設立されました。いずれは福島発のアニメを世界へ発信し、福島のイメージアップにつなげたいと思っています」と説明してくれた。

福島学の授業でなぜ福島ガイナックスに行くのか、いまいっぴんとこなかった咲良だったが、この言葉を聞いて納得した。

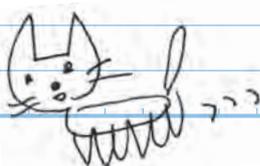
## アニメの力で復興支援

福島ガイナックスでは昨年、震災後に福島で起きた出来事や県民の様々な思いなどを国内外の多くの人々に伝えるため、福島県からの依頼で実話を基にした10本のドキュメンタリーアニメーション「みらいへの手紙〜この道の途中から〜」を制作した。

他にも、三春町やいわき市、伊達市など県内の自治体から、地域をPRするアニメ制作の依頼が次々と舞い込んでいる。福島市に本店を置く地方銀行、東邦銀行のテレビCMも手がけた。

アニメという媒体で  
福島を元気にしたい!!

それが一番の目的だ。



なるほど  
アニメで復興かあ

# アニメで人との関わりかたを学ぶ

現在、福島ガイナックスで働く約20%のスタッフは、ほとんど県内出身者である。「絵が描けなくてもアニメの仕事はできます。アニメは映画と同じで、いわば総合芸術。絵を描く人だけではなく、物語を考える人、音楽をつくる人、時代考証をする人…、さまざまな知識や技術を持つ人たちが集まって完成させるもの。制作のプロセスではものづくりだけではなく、人との関わり方も学ぶことができます。」と野田さんは語る。実際に、福島ガイナックスでは、子どもにアニメの原理や制作について教えるワークショップを開催したり、高校生と連携して地域をPRするアニメ制作のプロジェクトを進めるなど、人材育成にも取り組んでいる。

アニメと福島の復興、最初は全然結びつかなかったけど、野田さんの話を聞いて味良は思った。福島学で自分たちが学び実践しようとしていたこと、福島ガイナックスが目指すことは同じではないの。ならば、何か一緒にできないだろうかと考えていたら、三瓶先生が「福島学の学生の企画を、一緒に制作しませんか」と言い出した。野田さんも「ぜひ」と言ってくれた。やったー！福島学と福島ガイナックスの連携で福島を元気にする。なんてワクワクするんだろ。

いまからそれが、味良の夢になった。

わたしたちの手で  
福島の未来をつくる

参考資料 / 「これからの『福島学』の位置づけに関する一考」 2015年 三瓶千香子著

避難解除されたばかりの小高区を実際にバスから降りて、視察。車1台も通らない閑散とした空気は、実際に町を歩いてみないことには分からないものでした。学生たちは、とてつもなくショックを受け、「復興を何とかしなきゃ」と思ったようです。

じゃ、こういう案もどう？

僕たち、国見町をこーしたい

国見町小学6年生との「国見の未来づくり」プロジェクト。2日間に渡って、小学生たちのまちづくり未来ビジョンを短大生たちと考えるプロジェクトです。

見学の様子  
(アニメ制作現場を再現した「ガイナックス流アニメ作法」展)

## 空想とアートミュージアム 福島さくら遊学舎

〒963-7725  
福島県田村郡三春町大字鷹巣字瀬山213番地

《交通》磐越自動車道 船引三春ICより約10分  
※郡山駅からタクシーでお越しの方は郡山駅東口からのご利用が便利です！

©月眠・福島ガイナックス



発想から発送までお客様のニーズにお応じます。

**タカラ印刷株式会社**

〒960-8141 福島県福島市渡利字絵馬平86-9  
TEL.024-526-4303 FAX.024-526-4302  
E-mail sky@inaka.co.jp http://www.takara.inaka.co.jp/



タカラモノニュースは、お客様の「楽しい、ウレシイ」に役立つ情報提供を目指して、年4回発行しております。ご意見ご要望など、なんでもお気軽にお寄せください。